

# 山岳友の会会報

2022年4月 第43号



第56回現地研修会（甲州乾徳山） 撮影：横田 耕太郎

## も く じ

第56回現地研修会（乾徳山）	報告1 熊谷 久……………	2
	報告2 横田耕太郎……………	3
2022年度通常総会・第20回憧憬の森講演会		
	報告 小林 久雄……………	4
2022年度通常総会資料	……………	5

## 乾徳山 疲の彷徨

### — 第 56 回現地研修会（乾徳山）報告 その 1 —

熊谷 久

乾徳山は、山梨県の北部、奥秩父連山の前衛として山梨市に位置し、標高 2,031m の日本二百名山である。山名の由来は、塩山の恵林寺(武田信玄の菩提寺)を開山した夢窓国師が一夏座禅を組んで修行した山で、この恵林寺の乾(いぬい、易学では北西の意味)にあり、徳和村にあるので乾徳山というようになったそうです。

令和 4 年 3 月 6 日(日)、朝 8 時 15 分に乾徳山登山口駐車場を出発したのは、小林、細萱、滝澤、横田各氏と私の 5 名。徳和集落から林道を登山口まで 30 分程歩き、いよいよ山中に入る。登山口から国師ヶ原迄は、唐松の樹林帯で景色が見えない急坂を喘ぎながら先頭の小林さん達に遅れないよう必死でついて行く。落葉した唐松の隙間から富士山が見え隠れしてきた頃から緩やかな登りとなり、登山口から 2 時間程で国師ヶ原に到着。ここで滝澤さんが「俺は山屋じゃない」と勇気ある登頂断念。

国師ヶ原から積雪の残る牧草地の登山道を月見岩に向かい、途中、振り向けば甲府盆地の奥に山頂に僅かな雲を従えた富士山が春霞の中、その全容を見せている。これが乾徳山登山で私が一番期待していた景色であり、何度も立ち止まって写真撮影。冷たい強風に震えながら登山道を 30 分ほど登ると月見岩に到着。私も山屋ではないので、ここで戻ろうと思ったが、足と相談しながら行けるところまで行って、そこで断念すれば良いだろうと先行組の後を追う。

登山道を下ってくる人々がアイゼンを履いていたこともあり、扇平手前で軽アイゼンを付けて残雪が凍り付いた登山道を恐る恐る登っていく。クサリが取り付けられた岩場でアイゼンを外したが、その後山頂まで困ることはなかった。岩壁のクサリ場二箇所をやっとの思いで登り切り、内股の筋肉が痙攣しかかったところでラスボス(Last Boss)登場。山頂直下(鳳岩)のクサリ場は、目測で勾配約 70 度、高さ約 10m。登山者の靴底で長年磨かれて非常に滑り易く、亀裂はあるが思うところに足を掛けられない岩盤を、クサリを握りしめながら這い上がっていく。ヘルメットを滝澤さんの車に置いてきたことを後悔しつつ、12 時 35 分に登頂達成。4 時間 20 分のほぼコースタイムで登り切ったご褒美に 360 度のパノラマが迎えてくれた。遠く西方に金峰山、南に富士山、北に小雪が舞う奥秩父の山並が霞んでいた。



乾徳山頂も風が冷たく、小雪が舞いだしたので直ぐに下山開始。クサリ場を過ぎてからアイゼンを付けようと思い、残雪が部分的に凍結している登山道を慎重に下っていたら、山頂から丁度 1 時間のコースタイムで月見岩に到着。

月見岩からの道満尾根コースは、しばらくは緩やかな下りで正に尾根歩き。大平高原分岐の手前で滝澤さんと合流したが、ここからが最悪の下り坂。急坂というレベルではない。この坂を逆に登れと言われれば、絶対にお断りしたくなる急勾配で、しかも落ち葉が踝まで厚く溜まり、地面が見えず滑りやすい。太股の筋肉が悲鳴を上げ、



登山靴の中で足指が締め付けられるような痛みが出始めた。先行組の軽やかな足取りをうらやましく思いながらも、あまり離されないように、転ばないように付いていくのが精一杯。

道満山の下りから徳和の集落が見え始めてからも、なかなか登山口にたどり着かない。登山は全てが自己責任なのは十分に承知しているが、誰がこんな下り道を選んだんだと文句を言いたくなるほど長く辛い下山道であった。月見岩から約 2 時間で徳和集落の登山口にたどり着いた時は涙が出るほどうれしかった。

徳和集落のアスファルト道路を 15 分ほど下って登山口駐車場に帰着できたのは 15 時 50 分、全行程 7 時間 35 分の山歩きを終えることができました。案内図によると登山口駐車場～乾徳山の往復距離は、約 11km だそうで、厳しいコースをよく歩き通すことができましたと思います。今回の第 56 回 現地研修会は、参加者 5 名という淋しいものでしたが、信州大学山岳友の会 令和 3 年度の事業の締め括りとして有意義な活動であったことを副会長として会員の皆様にご報告いたします。

最後に、今回の乾徳山登山を案内していただいた小林さん、同行の細萱さん、滝澤さん、横田さんに感謝し、お礼を申し上げてレポートを纏めさせていただきます。

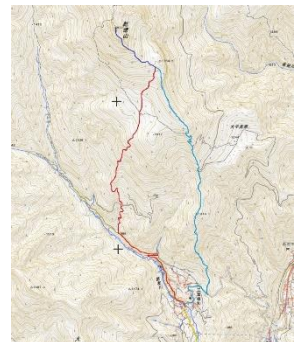
## 乾徳山 現地研修会に参加して —第 56 回現地研修会（乾徳山）報告 その 2—

横田 耕太郎

○参加メンバー 細萱、小林、熊谷、滝沢、横田

中止が続いた現地研修会。まん延防止等重点措置が 3 月 6 日までという事で、心配されましたがなんとか開催できました。参加者は当日さらに減って 5 人と少なかったものの、スリルも味わえ楽しい山歩きとなりました。

安曇野を出発した時から雪が舞うような空模様。さすがに山梨は青空でしたが、麓でも風が強ク「山頂じゃ長く居られないな」と覚悟して 8 時過ぎに登山を開始。林道から銀晶水、錦晶水を経て国師ヶ原に至る登山道は所々凍ったところもあります。



「下りは大変だなあ」遅れ気味の滝澤さんを励ましながら、下山道として道満尾根も選択できる国師ヶ原で滝澤さんと分かれ、残りのメンバーでまずは月見岩を目指しました。

例年より残雪は多く、「下りは距離は長くても道満尾根がいいかな？」と話ながら月見岩に着くと、ちょうど下山してきた登山者と会いましたので話を聞くと、やはり軽アイゼンはあった方がよいとの事。

ここから先、いよいよ岩場や鎖が続く核心部になります。途中で軽アイゼンやチェーンアイゼンを装着して登っていきますが、凍ったところは緊張します。カミナリ岩から最後の鎖場を抜けたところで、ランチをしている若者のグループと会いました。メンバーのひとりの女性は 3 回も頂上に登ったとの事。そんなに楽しいのか？





さて、頂上は風は強く北アルプス方面は雪雲に覆われて見えず、国師ヶ原で見えていた富士山も雲をかぶってきました。写真を撮ると早々に山頂を後にして、風のあまり当たらないところでランチ、その後下山を開始しました。

月見岩まで戻ると雪が強く降ってきました。滝沢さんと連絡がついたので、国師ヶ原に下らず道満尾根と大平牧場コースの分岐点を直接目指し、無事合流。スタートの徳和集落の駐車場を目指します。予想はしていましたがとにかく長い。そして急な下りです。落ち葉が溜まり足元の石ころが見えないので慎重に下ります。いい加減下った頃、ようやく麓の村が見えてきた時には16時前でした。

標高2031mの山、「2031年に登りに来よう。友の会で来られるかわからないけれど」乾徳山はコンパクトにバリエーションが詰まっています。人気の山であることを実感した研修登山でした。

## 2021年度通常総会・第20回憧憬の森講演会報告

小林 久雄

2022年度のスタートです。

4月2日に例年通り松本駅前会館で、山岳友の会2022年度通常総会と第20回憧憬の森講演会を、好天の中無事に開催することが出来ました。

新規加入の岐阜の鈴木さんと元環境省の西尾さんを迎えて、36名の参加で規約の改正（会費の改正）などを審議いただきました。

昨年度はコロナ感染拡大が続く中で事業計画は中止続きでしたが、今年度はそのリベンジを果たすべく、特に5、6月は「高野山と熊野三山」「伊豆天城峠」研修の再開を計画しています。研修を心待ちにしている皆さん、早目の申込みをお願い致します。



憧憬の森講演会は会員の松尾さんに『スペイン聖地巡礼の旅』を、動画や写真を用いてお話いただきました。巡礼手帳とザックに着けた貝でのピレネー越え、徒歩で辿ったスペイン横断の旅は大変興味深く、2ヶ月もの長旅（フランス人の道）はとても素敵な経験と感心するばかりでした。わたしも是非と思われ、感動した方も多かった様子です。

こんな状況下ですが、谷川岳や蓼科山に冬の美ヶ原や黒百合ヒュッテなど盛りだくさんの計画。うれしい思い出多き

一年にしたいと思うばかりです。

コロナに負けない良い年になるよう頑張りましょう。

【写真：荻野 秀夫】

次に総会資料を添付します。

なお、監査により、収支決算について適正に処理が行われていることが確認されました。

## 2021 年度友の会事業報告

新型コロナウイルス感染症の影響により中止や延期となった事業がいくつかありましたが、感染状況を考慮しながら可能な限り事業を行いました。主な事業について報告します。

### ○総会

通常総会 4月2日(土) 松本市駅前会館 22名参加 (委任状 57通)

### ○運営委員会

第16回運営委員会 3月19日(土) やそじ 12名参加

### ○憧憬の森講演会

第19回憧憬の森講演会 12月4日(土) 松本駅前会館 35名参加

「山小屋を経営して感じたこと」 講師：中村 梢 氏 (本会会員)

### ○現地研修会

第51回現地研修会 5月15日－16日「瀬戸川美林を訪ねる」15名参加

第52回現地研修会 8月25日－27日「熊野古道を歩く」中止

第53回現地研修会 10月19日－20日「紅葉の秋山郷と苗場山」17名参加

第54回現地研修会 1月19日－20日「美ヶ原高原冬空満喫ツアー」中止

第55回現地研修会 2月16日－17日「天城峠を歩く伊豆半島」中止

第56回現地研修会 3月6日「甲州乾徳山」5名参加

### ○会員集会 12月4日(土) 松本駅前会館 34名参加

### ○第26回上高地談話会 (第9回涸沢談話会) 7月1日－2日 涸沢ヒュッテ 15名参加

「北アルプスの気候－気温と雪」 講師：鈴木 啓助 氏 (本会会員)

### ○会報の発行 3回発行 (4月12日、9月1日、1月11日)

### ○上高地ステーションの整備、随時

# 2021年度 友の会 会計報告

(期間:2021年4月1日 - 2022年3月31日)

収入		支出	
前期繰越金	¥454,978 …①	管理費	DM便・郵便
会費	¥240,000	管理費	管理費計
家族会員	¥10,000	事業費	現地研修会
学生会員	¥1,000	事業費	涸沢談話会
賛助会員	¥80,000	事業費	事業費計
正会員(過年度)	¥6,000	会議費	総会会場使用料他
年会費計	¥337,000 …②	会議費	第19回憧憬の森講演会会場使用料他
事業費	¥536,500	会議費	会議費計
現地研修会	¥189,000	その他	振込手数料
涸沢談話会	¥725,500 …③	その他	その他計
事業費計			
その他	¥1,000		
事務手数料	¥1,000 …④		
その他計			
収入合計 (①~④合計)	¥1,518,478 …⑤	支出合計 (⑥~⑨合計)	¥777,788 …⑩
差引残高	(⑤-⑩)	次期繰越金	
	¥740,690	2022年度会費(次期計上)	
	¥6,000	残高計	
	¥746,690		

## 2022 年度信州大学山岳友の会事業計画

### 基本方針

友の会は設立 12 年目を迎えますが、次の基本事項に基づき事業を計画します。

1. 信州大学の山岳研究（信州山の環境研究センター）を支援します。
2. 会員相互の親睦と、心を豊かにする講座・研修会並びに講演会を開催します。
3. 大学と市民を結ぶ取り組みを考えます。
4. 会員を増やし、会の活動を充実します。
5. 会報は、会員の協力をいただき 4 回発行します。

### 事業計画（案）

期 日	内容等	備考（場所等）
4 月 2 日(土)	通常総会	松本駅前会館
5 月 9 日(月)～ 5 月 11 日(水)	第 57 回現地研修会「高野山と熊野」	高野山と 南紀白浜泊
6 月 6 日(月)～ 6 月 7 日(火)	第 58 回現地研修会「天城峠を歩く伊豆半島」	伊豆泊
7 月 4 日(月)～ 7 月 5 日(火)	第 27 回上高地談話会（第 10 回涸沢談話会） 「カナディアン・ロッキーの魅力」 山田耕太郎氏（本会会員）	涸沢ヒュッテ
8 月 29 日(月)～ 8 月 30 日(火)	第 59 回現地研修会「谷川岳と水上温泉」	水上温泉泊
9 月 28 日(水)～ 9 月 29 日(木)	第 60 回現地研修会「蓼科山と縄文のビーナス」	蓼科温泉泊
12 月 3 日(土)	憧憬の森講演会「氷の島：グリーンランド」 西村基志氏（本会会員）	松本駅前会館
1 月 11 日(水)～ 1 月 12 日(木)	第 61 回現地研修会「美ヶ原高原冬空満喫ツアー」	王が頭ホテル
2 月 6 日(月)～ 2 月 7 日(火)	第 62 回現地研修会「黒百合ヒュッテに泊まる冬の天狗岳」	黒百合ヒュッテ

## 2022年度 友の会 収支予算

(円)

### 収入の部

科目	本年度予算額	前年度決算額	増減	備考
繰越金	740,690	454,978	285,712	
会費	127,200	337,000	△ 209,800	正会員:83名 家族会員:2家族 4,000 学生会員:2名 200 賛助会員:8口 40,000
事業参加費	3,567,500	725,500	2,842,000	
雑収入	0	1,000	△ 1,000	
計	4,435,390	1,518,478	2,916,912	

### 支出の部

管理費	120,000	57,022	62,978	メール便・消耗品 ほか
事業費	3,567,500	707,172	2,860,328	
会議費	20,000	11,119	8,881	総会・講演会 ほか
雑費	0	2,475	△ 2,475	振込手数料
予備費	681,890	740,690	△ 58,800	残金は翌年度へ繰り越し
計	4,435,390	1,518,478	2,916,912	



## 「信州大学山岳友の会」規約

(名称)

第1条 この会は、信州大学山岳友の会（以下「友の会」という）と称する。

(事務局)

第2条 友の会の事務局は信州大学山の環境研究センター（以下「研究センター」という）に置く。

(目的)

第3条 友の会は、研究センターの活動を支援するとともに、会員相互の交流を図ることを目的とする。

(事業)

第4条 友の会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- 一 研究センターの活動を支援する事業
- 二 会員相互の交流を深める事業
- 三 会報の発行
- 四 友の会の普及と発展に必要な事業
- 五 その他友の会の目的を達成するために必要な活動

(会員)

第5条 友の会の会員は次のとおりである。

- 一 正会員 会の目的に賛同する個人
- 二 家族会員 会の目的に賛同する生計を一にする家族
- 三 学生会員 会の目的に賛同する生徒又は学生
- 四 賛助会員 会を支援する個人又は団体

(入会及び脱会)

第6条 友の会の趣旨に賛同し入会しようとするものは、所定の入会申込書を提出するものとする。

2 会員が脱会しようとするときは、所定の脱会届を提出するものとする。また、会費納付期限日から3ヶ月を経過する日までに会費の納付が無い場合は、脱会したものとみなす。

(会員の特典)

第7条 会員は、次の特典を受けることができる。

- 一 研究センターの主催する事業への参加
- 二 友の会の主催する事業への参加
- 三 会員相互の交流を深める事業への参加
- 四 会報の配布

(会費)

第8条 会費は、入会時及び毎年5月31日までに当該年度分として次の額を納める。

- 一 正会員 年額 31,000円/人
- 二 家族会員 年額 52,000円/家族
- 三 学生会員 年額 5100円/人
- 四 賛助会員 年額 1口105,000円以上

(役員)

第9条 友の会には次の役員を置く。

- 一 会長 1名
- 二 副会長 2名
- 三 運営委員 10名程度
- 四 監事 2名

(役員の仕事)

第10条 会長は、友の会を代表し会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその仕事を代理する。

3 運営委員は、運営委員会を組織し、事業の企画、立案及び調整を図る。  
運営委員長は運営委員の互選とする。

4 監事は、事業及び会計の監査を行う。  
(役員を選出)

第11条 役員は、総会において会員の中から選任する。  
(役員の任期)

第12条 役員は任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 欠員を生じたために就任した役員は、前任者の残任期間とする。

3 役員は任期が満了した場合に、後任者が就任するまでは、前任者がその任務を行う。  
(顧問)

第13条 友の会に顧問及び参与を置くことができる。

2 顧問及び参与は、会長が委嘱する。  
(会議)

第14条 会議は、総会及び運営委員会とする。

2 総会は、これを通常総会及び臨時総会とする。通常総会は毎年開催し、臨時総会は必要に応じ開催する。総会は会長が招集し、総会の議長は出席した正会員から選任する。

3 運営委員会は必要に応じ運営委員長が招集する。運営委員会には、必要に応じ部会をおくことができる。  
(議決)

第15条 総会の議事は、出席会員の過半数の同意をもって決定し、可否同数のときは議長の決するところとする。  
(総会付議事項)

第16条 総会に付議する事項は、次の各号に掲げる事項とする。

- 一 事業計画及び収支予算
- 二 事業報告及び収支決算
- 三 規約の変更
- 四 役員を選任
- 五 その他友の会の運営に関わる事項

(運営委員会付議事項)

第17条 運営委員会に付議する事項は、次の各号に掲げる事項とする。

- 一 総会に付議する事項
- 二 事業の企画、立案及び調整等
- 三 その他運営委員長が必要と認めた事項

(会計)

第18条 会の経費は、会費その他の収入をもってこれに充てる。  
(会計年度)

第19条 会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。  
(補則)

第20条 この規約に定めるもののほか必要な事項は、運営委員会において定める。

## 附 則

この規約は平成232011年4月1日より施行する。

この規約は平成242012年4月8日より改正する。

この規約は平成272015年4月6日より改正する。

この規約は平成292017年4月2日より改正する。

この規約は2022年4月2日より改正する。

信州大学山岳友の会会報 第43号  
発行日：2022年4月6日  
発行：信州大学山岳友の会  
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1  
信州大学山岳友の会事務局  
TEL：0263-37-3332  
FAX：0263-37-2438  
E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp